

# 「震電」攻撃隊

原爆搭載機ヲ撃墜セヨ

SHINDEN KOUGEKITAI



J7 KYUSYHU AIR CRAFT.CO 1945

著 ワクロー3

大東亜戦争末期、  
三発目の原爆投下を阻止するため  
福岡県西部に展開した 対B29迎撃の  
海軍戦闘機部隊の最後の日々を描く。  
九州の空を翔ける、  
十八試局地戦闘機「震電」(J7W1)攻撃隊の物語

## 目次

序章

難物の滑走路

新鋭機で仇討

原爆阻止誓う

出撃命令下る

六翅プロペラ

上昇中の悲劇

超重爆を攻撃

最高速で追う

上原機の最期

牛尾少尉の死

終章

あとがき

九州で生まれた 戦いの美神

図一覧

# 序章

## 震電を隠していた掩体壕

「この畑、変わった地形ですね。もともと、こんな地形だったのですか」

平成十九年の夏、九州大学農学部の子生だった私は、福岡市の「都市近郊体験型農業支援事業」に応募して、福岡市西区今宿青木の農家に十日間滞在した。

七十五歳以上の高齢者の営農を手伝い農作業を体験する事業で、私の滞在先は、水田と畑地を所有する専業農家。ご主人は、中村純一郎さんという方だった。この土地で戦前から農家を営み、八十六歳になる、日に焼けた寡黙な農民だった。

連日の猛暑の中、午前六時に起床して、朝食後に田の草取りを行い、午後から畑に水やりをする。夕方五時には帰宅して食事、午後八時過ぎには就寝する。中村さんとは、並んで作業するわけではないので、朝と昼の二度、顔を合わせた時に簡単な指示を受けるだけで、会話がはずむわけでもない。

そんな、農業体験の単調な日々が続き、きょう一日で体験終了という八月一三日のことだった。

いつものように午前中、田の草取りをして、午後の作業場となる畑に移動して、中村さんと昼食のおにぎりを食べていたとき、かねて気になっていたことが、冒頭の質問になった。

「この畑、変わった地形ですね。もともと、こんな地形だったのですか」

その質問が、中村さんの、何かに触れたと思う。時間にして五十分間だったろうか。そんな長い時間、中村さんが、話を続けたのは、これ一度きりだった。

「戦時中は、ここは飛行場」

「え？飛行場ですか。平らな地形は、そのせいだったんですね」

しかし、疑問もある。

「でも、完全に水平ではないですよ。それに、平らなのは、ここだけで、これから上はせりあがっていて、反対にあちらは下がっていますよ。どんな飛行場だったんですか」

「そんな飛行場たい」

「スキー場みたいな滑走路だったんですか。下の方は、畑が途切れて、その先は崖になっていますし」

中村さんは、手の平を飛行機のようにして、説明し始めた。

「離陸するときは、下に向かって加速するとたい。着陸するときは、下から上に着陸する。ケツのプロペラを地面にぶつけんごと、苦労したとたい」中村さんの言葉が気になった。

「え。ケツノ、プロペラ？」

「震電は、プロペラが後ろ。離陸の時に、機首を急いで起こすと接地する」

セッチ？ますます理解できなくなった。シンデン？私のために、中村さんが、落ちていた竹を拾って、地面に絵を描く。

「震電は。プロペラが前でなくて、後ろにある戦闘機たい」

中村さんが地面に線を描く。

「こげなふうに。これが前。これが後ろ」

中村さんは、前が小さくて、後ろが大きい飛行機の形を描く。大きな後ろにプロペラを描いた。

「この土地は、滑走路だったんですか」

「そうたい」

それが、このあたりの奇妙な地形の理由だったのか。

「震電」という戦闘機については、この時には、プロペラの位置が前ではなく、背後についている不思議な形状の戦闘機、という理解しか得ていない。

「飛行場は、夜中だけ工事して、三か月でできた」

「秘密基地みたいですね」

「そうたい。海軍のヒミツキチたい」

「さっきのトラクター置いている場所も、基地の施設だったんですか」

「あれは、震電を隠していた掩体壕」

「エンタイゴウ？」

「それで？あの」

私は中村さんと基地との関連を質問しようとした。すると、中村さん自身が語り始めた。

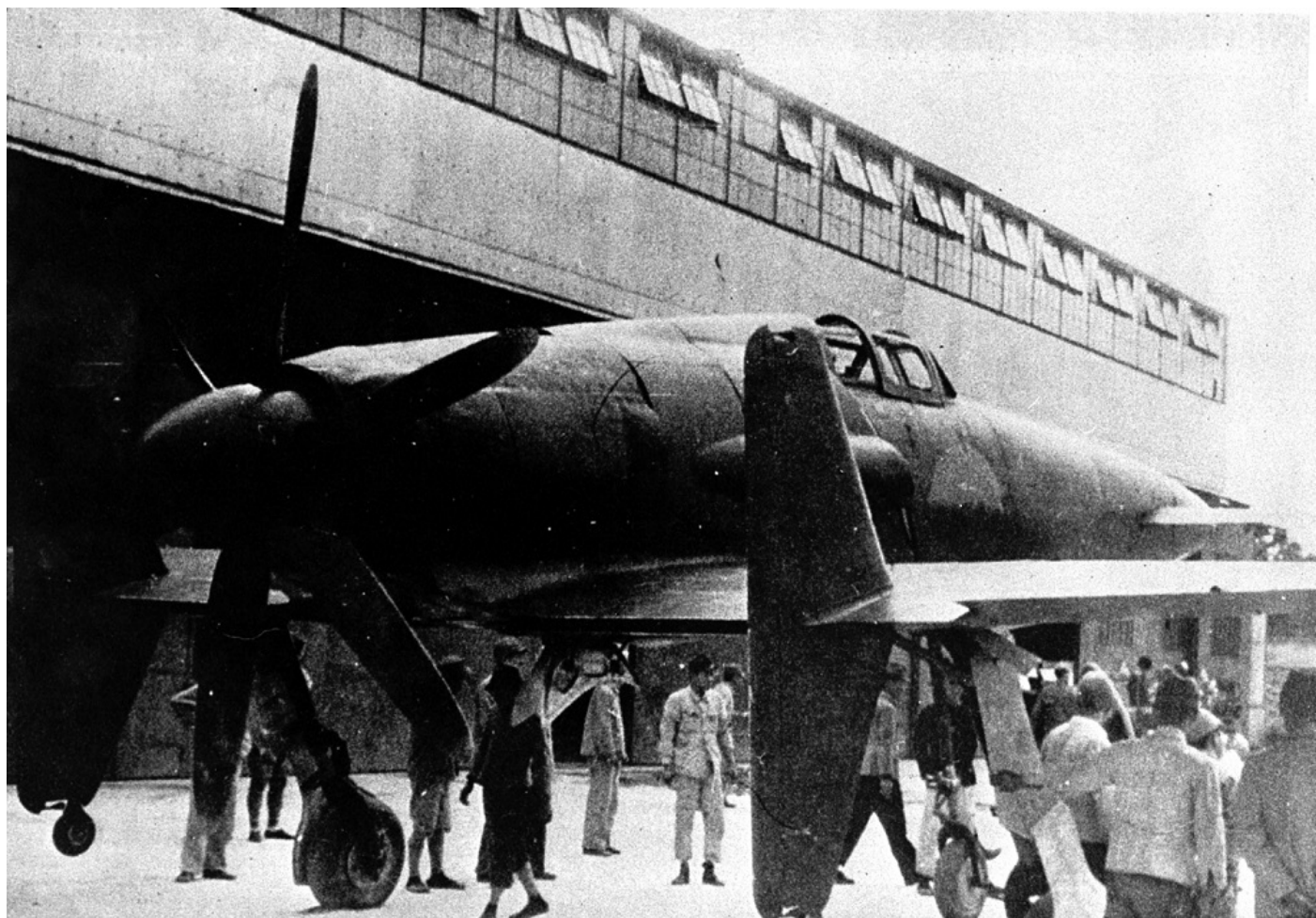
「先祖伝来の家の畑が、飛行場になって、海軍におった俺は、偶然この基地に配属された」

「ハイゾクって？中村さんは、パイロットか何かだったんですか」

「海軍航空隊の搭乗員たい。パイロットやら、敵性語は使わんけん」

野良着にゴム長靴で、どこからどうみても農民姿の中村さんの、かつての姿を想像するのは、困難だった。写真でもあれば、当時の面影をしのぶことができたかもしれないが、あいにく畑では、そういうものもない。





【西日本新聞社提供】昭和20年6月、終戦直前に九州飛行機で完成した18試局地戦闘機「震電」※筆者注；6翅プロペラを付けた位置から撮影。後部からの状況がよくわかる。（表紙写真にも使用）

# 難物の滑走路

空母の艦上と思ってくれ

# 新鋭機で仇討

六月空襲で福岡市も廃墟

# 原爆阻止誓う

見抜けアメリカ軍の陽動



# 出撃命令下る

敵大型爆撃機を邀撃せよ

# 六翅プロペラ

傾斜滑走路を全機が離陸

# 上昇中の悲劇

発動機不調と友軍の誤射

# 超重爆を攻撃

30ミリ機銃4丁の威力

# 最高速で追う

時速七百五十キロで追う

# 上原機の最期

B 2 9に残る全弾を放つ



# 牛尾少尉の死

ただ指揮官の自分だけが

# 終章

赤い巨大なカンナの群生

# あとがき

九州で生まれた 戦いの美神

## 図一覧

### 序章

【西日本新聞社提供】昭和20年6月、終戦直前に九州飛行機で完成した18試局地戦闘機「震電」※筆者注；6翅プロペラを付けた位置から撮影。後部からの状況がよくわかる。（表紙写真にも使用）

## 著者

ワクロー3 わくろうさん

福岡県早良郡原村の水田と畑に囲まれた地域に育つ。戦記もの全般を読むこと。戦時中の映像や、軍歌・戦時歌謡などの音源を聴くことが趣味。

# 震電攻撃隊 - 原爆搭載機ヲ撃墜セヨ -

## 原爆搭載機を撃墜せよ

平成二十五年十二月二日

ワクロー3の執筆による小説。太平洋戦争末期の九州で秘密裏に進められた原子爆弾投下阻止を任務とする局地戦闘機隊の物語。正規採用の実機写真を掲載し、大幅に記事加筆を施した。

増補改訂版

### | 著者

ワクロー3 わくろうさん

### | 著作権者

ワクロー3

### | 著作権表記

不許複製



### レーベル

eXism Short Magazine